

# りんご・もも部会特報

No.3



2019年3月15日  
J A中野市りんご・もも部会  
J A中野市園芸課

2019 生育開花予想 ⇒ 白鳳 4/15 頃 ふじ 4/25 頃 \*平岡付近

初期生育は昨年並みに進むと予想されますが、土壌水分不足のため開花の不揃いが心配されます。加えて、4月の凍霜害遭遇の危険性があります。今からできる凍霜害対策は進めてください。

りんご	ふじ(平岡)			
年度	発芽	開花	満開	エゾノコリンゴ発芽
H29	4/7	5/1	5/5	2/20
H30	3/29	4/21	4/24	2/14
<b>2019</b>	<b>3/31?</b>	<b>4/25?</b>	<b>4/27?</b>	<b>2/19</b>
もも	白鳳(平岡)			
年度	発芽	開花	満開	収穫開始
H29	4/7	4/19	4/24	8/3~
H30	3/29	4/12	4/17	7/25~
<b>2019</b>	<b>3/30?</b>	<b>4/15?</b>	<b>4/20?</b>	

参考：黒星病防除のポイント \*展葉が進むと感染リスクが高まります！ご注意ください！

感染期は4~5月(発芽~落花10日後)です。逆に言えば、この期間をしっかりと防除すれば、果実感染を防ぐことが可能です。詳しくは時期の特報によりますが、防除日程見込みは下記になります。殺菌剤のみ記載。

- ① 4/5~10 頃：パスポートフロアブル 1,000 倍 \*目安：発芽から約7日後
  - ② 強化体系 4/10~20 頃：ベフラン液剤 1,000 倍 \*目安：開花10日前(展葉5枚)
  - ③ 4/22~25 頃：オルフィンフロアブル 4,000 倍 \*展葉が進みます。散布量は多めに設定
  - ④ 5/2~5 頃：ユニックス 1,000 倍+オンリーワン F2,000 倍 \*連休中の散布
  - ⑤ 5/12~17 頃月中旬：フルーツセイバー \*ふじ落花10日後に当たります。
  - ⑥ 強化体系 5/20~25 頃：ジマンダイセン水和剤 500 倍
- ⊕ まとまった降雨前の予防散布を基本とします。概ね10日間隔で防除を進めてください。



↑被害葉 ⇒ これが病気のもと！



↑被害果 ⇒ がくあ部に大きな斑点

## 百年ふじの里構築へ

春植え用苗木の注文頂きましてありがとうございました。昨年度は合計1,100本の百年ふじが導入されました。本年度で導入から7年目を迎え、この秋までには合計苗木数で約4,500本・面積で約22㍍規模の生産基盤が構築される見込みです。部会・JAでは「百年ふじの里」構築にむけて園芸特別対策事業等を活用して苗木助成を中期的に実施していく予定です。市内各地でふじの老木化・生産性低下が顕著な状況です。つきましては、この機会に百年ふじを中心に生産基盤の若返りを図ってください。

春植え用苗木の配布は3月最終週を予定しています。植え込みの準備を進めてください。

次頁もお読みください。

高糖度なモモ生産へのキーワードは、「光（日照量）」、「窒素」、「水」

2/19に北信果樹冬季大学（主催：北信園芸振興協議会）が開催され、和歌山県果樹試験場の<sup>わなか</sup>和中主任研究員から、モモの高糖度果実生産技術についての講演がありました。糖度を上げるための対策は何か？モモ生産者の皆様にとっては、当たり前と思われる事ばかりかもしれませんが、講演で発表された和歌山県の事例を以下に紹介しますので、現状のモモづくりを振り返りながら、今後の園地管理にお役立て下さい。

**高糖度**な園地の特徴・・・園内（樹冠内部）が明るい。樹勢が落ち着いている。排水性が良い。

**低糖度**な園地の特徴・・・園内が暗い。土壌中の窒素（果実内の窒素含量）が多い。排水性が悪い。

上記は、糖度センサーによる選別を行った和歌山県内の園地の傾向という事で紹介されましたが、JA 中野市管内の過去3年間の選果データからも同様の傾向が見られており、どこの産地でも共通事項と言えます。

具体的な対策は？

- 「光」・・・① 樹間 ⇒ 栽植距離は7～8m間隔。10a 当たり 20 本。密植園では、縮伐・間伐を行う。  
② 着果位置 ⇒ 日当たりの良い部分への着果（樹冠の中間部～上部を多め。下部は少なめ。）  
③ 徒長枝 ⇒ 徒長枝が混みあっている場合は、6～7月に切除し、結果枝に日を当てる。

- 「窒素」・・・① 施肥 ⇒ 樹勢の強い(徒長枝の発生が多い)園地では堆肥施用を中止し、窒素施用を控える。弱樹勢は果実肥大が劣るため、土壌診断に基づいた施肥により適樹勢を保つ。  
(結果枝先端の適度な葉の長さ：16～17 cm)

- 「水」・・・① 排水 ⇒ 水田転換園や粘土質土壌では「暗きよ」または「明きよ」による排水対策を行う。  
② かん水 ⇒ 土壌が乾燥状態の場合は、適宜、かん水を行う。葉が萎れてからのかん水では遅い。

この他にも、時期別のポイントが多岐に渡って紹介されました。(当日の資料が必要な場合は、園芸課 (23-3933) へ)

JA 中野市に新選果機（糖度センサー）が導入されて4年が経過しました。糖度保証品が高評価を得ておりますが、現状はその年の気象、特に「日照量」と「降水量」の多少によって糖度が左右され、特秀品の出荷比率が安定せず市場からの要請量に答えられない状況です。

上記の事例は、すぐに実践できる事、数年かけて改善していく事、対策が難しい事など様々ですが、「糖度アップ」に向けて、まずは取り組める事から始めてみましょう！

今後の管理作業について

- 4月上旬～・・・摘蕾 ⇒ あかつき、なつっこ等、結実の良い品種は必ず実施する。  
(詳細は、ももネクタリン特報No.1を参照)
- 4月中旬～・・・樹幹部に被覆したワラの除去 ⇒ 凍害が発生する園地、6～7年生までの若木。
- 開花期～5月末まで・・・せん孔細菌病 春型枝病斑の除去 ⇒ 本年も越冬密度が高いと予想されます。  
開花期以降は7～10日に一度園地を見回り、徹底的に枝病斑を除去する。  
**\*この作業を徹底しなければ、園内の菌密度は下がりにません。**

典型的な枝病斑  
(芽の基部が黒褐色、ひび割れ、陥没)



先端の枝病斑  
(先枯れ症状は全て切除する)

